



刈谷伊社長

2020年の東京五輪開催まで約3年—。インバウンド需要の高まりから、カーラッピング市場も活気づいていくこと必至だ。

業界戦略の新たな柱に位置付け、積極果敢にチャレンジする企業が少なからず出てきている。

言い換れば、車体装飾は、サイン施工を巧みに運営したことである。

「本家」の技術で、ビジネスチャンスをつかむ—。本連載は、専門技術をするサイン施工について、企業各社の取組みを追うもの。

第一弾は車体装飾編とし、市場環境や今後の可能性にも言及していく。第五回は、高級輸入車におけるフルラッピング技術に定評があるデザインラボ。

物条例改正以来、車体装飾を有力なビジネスツールに捉え、市場参入を果たした企業の業種・業態は多岐に亘っている。サイン業界においても、事務所の新設などに位置付け、積極果敢にチャレンジする企業が少なからず出てきている。

95年に法人化。現社名は、「刈谷看板サービス」として発足した。

「本家」の技術で、ビジネスチャンスをつかむ—。本連載は、専門技術をするサイン施工について、企業各社の取組みを追うもの。

第一弾は車体装飾編とし、市場環境や今後の可能性にも言及していく。第五回は、高級輸入車におけるフルラッピング技術に定評があるデザインラボ。

## シリーズ 「追跡」 サイン施工 最前線 車体装飾編

&lt;第五回&gt;

# デザインラボ

## サイン業への相乗効果を期待 専門部隊とネットショップ設置

刈谷社長は入社時(91年)から貼り施工に特化、トラックの「コルゲートボディやシャッターなどのシート加工」にも意欲的に取組んできた。05年、車体装飾事業に本格

着手。「不況が長期化している時代、通常の看板業務だけでは会社の成長も心許ない。業容の拡大を図る必要があった。」グローバルな看板業者として、付加サービスとして、年内初のカーラッピング用品専門ネットショップ「PPFSHOP」も

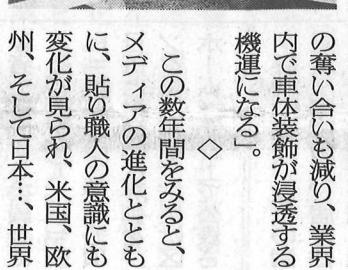
一方で、「一般的なカットリンクエンジの市場は、安定期に入りつつある。今後は、企業営業車に可能性を見出すべき」。

IJP出力などを使ったオリジナルディーあるデザインの企業営業車ニーズは、年々増加傾向。使用できる優良なメディアが続々登場していることもあり、今、サイン施工会社が新規参入するなり、企業営業車が狙い目。地元企業からのサイン受注の際、営業車のラッピングも同時に提案する。現

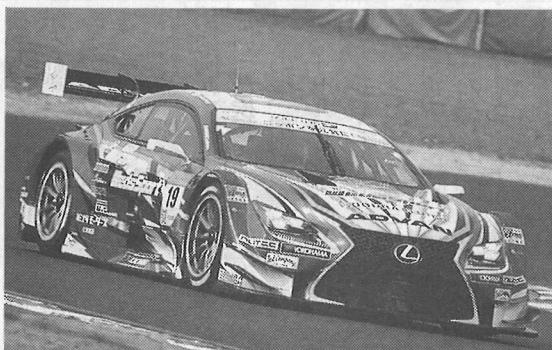
07年には、専門部隊「PPFSHOP」をスタート。国産テクションフィルム事業部

車、高級輸入車、ショーカー、企業用プロモーションカー、カスタムカー、レーシングカー、痛車などを手掛けていく。

中でも、難度の高さで知られる高級輸入車の「フルラッピング」に力を発揮している。



レーシング車(上)、高級輸入車の車体装飾



この数年間をみると、メイティアの進化とともに、貼り職人の意識にも変化が見られ、米国、欧洲、そして日本…、世界的開設。厳選した材料と工具を販売することで、国内のみならず、海外の事業者にも対応できる体制を敷いた。

一方で、「一般的なカットリンクエンジの市場は、安定期に入りつつある。今後は、企業営業車に可能性を見出すべき」。

IJP出力などを使ったオリジナルディーあるデザインの企業営業車ニーズは、年々増加傾向。使用できる優良なメディアが続々登場していることもあり、今、サイン施工会社が新規参入するなり、企業営業車が狙い目。地

元企業からのサイン受注の際、営業車のラッピングも同時に提案する。現

は確かな「技術力」で地案件を地元業者が確保

していこうと、シェアの奪い合いも減り、業界内で車体装飾が浸透する機運になる」。

この数年間をみると、メイティアの進化とともに、貼り職人の意識にも変化が見られ、米国、欧洲、そして日本…、世界的開設。厳選した材料と工具を販売することで、国内のみならず、海外の事業者にも対応できる体制を敷いた。

一方で、「一般的なカットリンクエンジの市場は、安定期に入りつつある。今後は、企業営業車に可能性を見出すべき」。

IJP出力などを使ったオリジナルディーあるデザインの企業営業車ニーズは、年々増加傾向。使用できる優良なメディアが続々登場していることもあり、今、サイン施工会社が新規参入するなり、企業営業車が狙い目。地

元企業からのサイン受注の際、営業車のラッピングも同時に提案する。現

は確かな「技術力」で地案件を地元業者が確保